2027年３月期　中間決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月13日

上 場 会 社 名　株式会社デンタス　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　6174　　URL　https://www.dentas.jp/
代　　表　　者（役職名）代表取締役社長　　（氏名）河野恭佑
問合せ先責任者（役職名）取締役管理部長　　（氏名）大﨑　隆　　（TEL）　(088)657-3115
中間発行者情報提出予定日　　2026年12月28日　　配当支払開始予定日　　―
中間決算補足説明資料作成の有無　：　無
中間決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期中間期の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	350	△21.9	△27	―	△28	―	△27	―
2026年３月期中間期	449	△4.5	△23	―	△23	―	△22	―

（注）　中間包括利益 2027年３月期中間期　　△29百万円(－%)　2026年３月期中間期　△24百万円(－%)

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	△66.31	― ―
2026年３月期中間期	△55.51	― ―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	404	1	△5.7
2026年３月期	440	3	△5.0

（参考）　自己資本　2027年３月期中間期　　△22百万円　　2026年３月期　　△21百万円

２．配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	0 00	0 00
2027年３月期	―		
2027年３月期(予想)		0 00	0 00

（注）　直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	865	9.5	6	―	4	―	3	―	9.35

（注）　直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　：　有・(無)

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　有・(無)

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　有・(無)

②　①以外の会計方針の変更　：　有・(無)

③　会計上の見積りの変更　：　有・(無)

④　修正再表示　：　有・(無)

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	433,166株	2026年３月期	406,666株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	1,300株	2026年３月期	1,300株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	415,792株	2026年３月期中間期	405,366株

※ 中間決算短信は、公認会計士又は監査法人の中間監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、中間決算短信（添付資料）４ページの「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧下さい。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 ……2
（１）経営成績の概況 ……2
（２）財政状態の概況 ……3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……4
（４）継続企業の前提に関する重要事象等について ……4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 ……6
（１）中間連結貸借対照表 ……6
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 ……8
（３）中間連結株主資本等変動計算書 ……10
（４）中間連結キャッシュ・フロー計算書 ……12
（５）中間連結財務諸表に関する注記事項 ……13
（継続企業の前提に関する注記） ……13
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） ……13
（セグメント情報等） ……14
（重要な後発事象） ……15

１．経営成績等の概況

（１）経営成績の概況

当中間連結会計期間（2026年４月１日～2026年９月30日）における我が国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移した一方で、エネルギー価格や原材料価格の高止まりに伴う物価上昇の長期化や、中東地域をはじめとする地政学リスクの高まり等により、依然不透明な状況が続いております。

また、当社グループが事業を営む歯科関連業界及び日雑業界においても、原材料価格の高騰や競争の激化等により厳しい状況が続いております。

こうした事業環境のもと、当社グループは主力セグメントであるオーラルケア製品製造販売事業及びマウスピース矯正事業の業容拡大に注力してまいりました。

このような状況の下、当中間連結会計期間における売上高は350,780千円（前年同期比21.9％減）、営業損失は27,804千円（前中間連結会計期間は営業損失23,103千円）、経常損失は28,798千円（前中間連結会計期間は経常損失23,984千円）、親会社株主に帰属する中間純損失は27,574千円（前中間連結会計期間は親会社株主に帰属する中間純損失22,503千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりであります。

（歯科技工関連事業）

当セグメントの売上高は96,462千円(前年同期比14.8％減)、セグメント損失は13,880千円(前中間連結会計期間はセグメント損失15,684千円)となりました。

・歯科技工

主な売上である歯科技工物の製作については、競争激化による受注件数の減少により、売上高は43,734千円（前年同期比10.7％減）となりました。

・歯科技工商品・製品販売

一部取引先からの受注回復により、当中間連結会計期間における売上高は23,668千円（前年同期比20.6％増）となりました。

・歯科関連商品販売

AED他、歯科関連商品の販売減少により、当中間連結会計期間における売上高は29,059千円（前年同期比34.7％減）となりました。

（オーラルケア製品製造販売事業）

連結子会社のアイオニック株式会社におけるイオン歯ブラシの売上が減少し、当セグメントの売上高は243,393千円（前年同期比16.6％減）、セグメント損失4,694千円(前中間連結会計期間はセグメント損失5,403千円)となりました。

*イオン歯ブラシ：内蔵されたリチウム電池から10～50マイクロアンペア（100万分の10～50ア

ンペア）の微弱電流（マイナスイオン）を流して、虫歯・歯周病・口臭の原因となる「歯垢」を効率的に取り除く歯ブラシ

（マウスピース矯正事業）

他の事業者の参入による競争激化により広告単価が高騰、新規契約者数の減少を招き売上高が大幅に減少、当セグメントの売上高は10,924千円（前年同期比75.4％減）となり、セグメント利益も6,276千円（前年同期比51.2％減）と減少しました。

（２）財政状態の概況

①資産、負債および純資産の状況

当中間連結会計期間末における、資産、負債および純資産の状況は、次のとおりです。

㈠流動資産

流動資産は284,671千円となり、前連結会計年度末と比較して28,280千円減少しました。

主な科目の増減及び増減理由は次のとおりです。

・現金及び預金が23,882千円減少しました。

これは主に、中間純損失29,088千円の計上によるものであります。

㈡固定資産

固定資産は119,959千円となり、前連結会計年度末と比較して7,917千円減少しました。

主な科目別の増減及び増減理由は次のとおりです。

・有形固定資産が7,765千円減少しました。

これは主に、減価償却が進んだことによるものであります。

㈢流動負債

流動負債は275,285千円となり、前連結会計年度末と比較して13,848千円減少しました。

主な科目別の増減及び増減理由は次のとおりです。

・１年内返済予定の長期借入金が12,919千円減少しました。

これは借入金の返済によるものであります。

㈣固定負債

固定負債は128,243千円となり、前連結会計年度末と比較して19,761千円減少しました。

主な科目別の増減は次のとおりです。

・長期借入金が18,972千円減少しました。

これは借入金の返済によるものであります。

㈤純資産

純資産は1,102千円となり、前連結会計年度末と比較して2,588千円減少しました。

これは、親会社株主に帰属する中間純損失27,574千円を計上する一方、新株の発行により資本金及び資本剰余金が計26,500千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比較して23,882千円減少し、38,634千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は30,923千円となりました（前中間連結会計期間は使用した資金36,745千円）。これは主に、税金等調整前中間純損失28,798千円の計上があった一方、売上債権が10,377千円減少したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は1,957千円となりました（前中間連結会計期間は使用した資金8,029千円）。これは主に、有形固定資産1,117千円及び無形固定資産840千円の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は9,009千円となりました（前中間連結会計期間は使用した資金26,695千円）。これは、預り金の受入れによる収入14,400千円及び株式の発行による収入26,500千円があった一方、長期借入金の返済による支出31,891千円があったことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期における通期連結業績予想につきましては、2026年５月15日付の決算短信で公表した業績予想から変更しておりません。

（４）継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、前連結会計年度において、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、また、当中間連結会計期間においても、営業損失27,804千円、経常損失28,798千円、親会社株主に帰属する中間純損失27,574千円を計上しております。

当該状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは当該状況を解消し又は改善すべく、以下の対応策に取り組み、安定した収益基盤の確立、コスト削減および資金調達等による、財務基盤の強化を目指してまいります。

具体的には次のとおりであります。

１．既存事業である歯科技工関連事業、オーラルケア製品製造販売事業及びマウスピース矯正事業の収益拡大と利益率の向上を目指し、さらに新規事業として歯科関連ビジネスの立ち上げと育成にも努めてまいります。

２．イオン歯ブラシの製造販売を行っている連結子会社アイオニック株式会社との連携によって、収益基盤の拡大とシナジー効果の創出に努めてまいります。

３．主要取引先であり、アイオニック株式会社への共同出資を実施した株式会社シケンと引き続き緊密に連携し、収益の拡大を図ってまいります。

４．人件費を含めた経費の全面的見直しを実施、不採算部門の縮小等リストラクチャリングを積極的に推進し、キャッシュ・フローの最大化を目指してまいります。

５．財務状態の改善を目指し、新たなファイナンスの検討を実施、同時に借入金等その他の資金調達についても進めてまいります。

以上の対応策を中心とした経営の効率化を図り、安定的な収益基盤を構築すべく努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上であり、計画が全て順調に推移するとは限らず、不測の事態も考えられることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

２　中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表　　（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	62,516	38,634
受取手形及び売掛金	67,691	58,336
電子記録債権	21,679	20,658
商品及び製品	49,312	49,106
仕掛品	6,522	4,852
原材料及び貯蔵品	94,506	90,191
その他	17,558	29,548
貸倒引当金	△6,834	△6,655
流動資産合計	312,952	284,671
固定資産		
有形固定資産		
建物	206,447	205,466
減価償却累計額	△158,397	△159,892
建物(純額)	48,050	45,574
機械装置及び運搬具	392,067	392,287
減価償却累計額	△386,251	△387,958
機械装置及び運搬具(純額)	5,816	4,328
工具、器具及び備品	377,269	375,752
減価償却累計額	△356,741	△359,027
工具、器具及び備品(純額)	20,528	16,725
リース資産	7,284	7,284
減価償却累計額	△7,284	△7,284
リース資産(純額)	－	－
土地	41,500	41,500
有形固定資産合計	115,894	108,128
無形固定資産		
ソフトウエア	5,754	5,625
借地権	4,900	4,900
無形固定資産合計	10,654	10,525
投資その他の資産		
破産更生債権等	122,982	122,982
その他	1,328	1,305
貸倒引当金	△122,982	△122,982
投資その他の資産合計	1,328	1,305
固定資産合計	127,876	119,959
資産合計	440,829	404,631

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	30,747	19,676
短期借入金	150,000	150,000
１年内返済予定の長期借入金	51,613	38,694
未払金	21,866	23,310
未払法人税等	901	450
未払消費税等	1,190	6,484
前受金	106	51
賞与引当金	9,452	8,700
その他	23,256	27,917
流動負債合計	289,133	275,285
固定負債		
長期借入金	114,006	95,034
繰延税金負債	3,093	2,919
退職給付に係る負債	28,865	28,250
資産除去債務	2,040	2,040
固定負債合計	148,005	128,243
負債合計	437,139	403,528
純資産の部		
株主資本		
資本金	67,984	81,234
資本剰余金	30,000	43,250
利益剰余金	△119,794	△147,369
株主資本合計	△21,810	△22,884
非支配株主持分	25,500	23,986
純資産合計	3,690	1,102
負債純資産合計	440,829	404,631

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	449,328	350,780
売上原価	323,492	241,996
売上総利益	125,836	108,783
販売費及び一般管理費	148,940	136,588
営業損失（△）	△23,103	△27,804
営業外収益		
受取利息	103	98
受取配当金	1	1
作業くず売却益	1,836	1,237
その他	394	417
営業外収益合計	2,335	1,755
営業外費用		
支払利息	2,946	2,728
為替差損	191	－
雑損失	77	20
営業外費用合計	3,216	2,749
経常損失（△）	△23,984	△28,798
税金等調整前中間純損失（△）	△23,984	△28,798
法人税、住民税及び事業税	461	464
法人税等調整額	△168	△174
法人税等合計	293	289
中間純損失（△）	△24,278	△29,088
非支配株主に帰属する中間純損失（△）	△1,775	△1,513
親会社株主に帰属する中間純損失（△）	△22,503	△27,574

中間連結包括利益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純損失（△）	△24,278	△29,088
中間包括利益	△24,278	△29,088
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	△22,503	△27,574
非支配株主に係る中間包括利益	△1,775	△1,513

（３）中間連結株主資本等変動計算書

前中間連結会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	67,984	30,000	△76,844	21,140
当中間期変動額				
親会社株主に帰属する中間純損失（△）			△22,503	△22,503
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）				
当中間期変動額合計	―	―	△22,503	△22,503
当中間期末残高	67,984	30,000	△99,347	△1,362

	非支配株主持分	純資産合計
当期首残高	26,995	48,136
当中間期変動額		
親会社株主に帰属する中間純損失（△）		△22,503
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	△1,775	△1,775
当中間期変動額合計	△1,775	△24,278
当中間期末残高	25,219	23,857

当中間連結会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	67,984	30,000	△119,794	△21,810
当中間期変動額				
新株の発行	13,250	13,250		26,500
親会社株主に帰属する中間純損失（△）			△27,574	△27,574
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）				
当中間期変動額合計	13,250	13,250	△27,574	△1,074
当中間期末残高	81,234	43,250	△147,369	△22,884

	非支配株主持分	純資産合計
当期首残高	25,500	3,690
当中間期変動額		
新株の発行		26,500
親会社株主に帰属する中間純損失（△）		△27,574
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	△1,513	△1,513
当中間期変動額合計	△1,513	△2,588
当中間期末残高	23,986	1,102

（４）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失（△）	△23,984	△28,798
減価償却費	11,641	9,851
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△200	△179
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2,168	△615
受取利息及び受取配当金	△104	△99
支払利息	2,946	2,728
売上債権の増減額（△は増加）	△2,662	10,377
棚卸資産の増減額（△は増加）	△10,741	7,391
仕入債務の増減額（△は減少）	△5,713	△11,070
その他	△6,419	△16,967
小計	△33,070	△27,382
利息及び配当金の受取額	104	99
利息の支払額	△2,945	△2,726
法人税等の支払額	△834	△914
営業活動によるキャッシュ・フロー	△36,745	△30,923
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,859	△1,117
無形固定資産の取得による支出	△200	△840
その他	30	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,029	△1,957
財務活動によるキャッシュ・フロー		
預り金の受入れによる収入	－	14,400
長期借入れによる収入	5,600	－
長期借入金の返済による支出	△31,589	△31,891
リース債務の返済による支出	△706	－
株式の発行による収入	－	26,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△26,695	9,009
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△10
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△71,472	△23,882
現金及び現金同等物の期首残高	127,314	62,516
現金及び現金同等物の中間期末残高	55,841	38,634

（５）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

当社グループは、前連結会計年度において、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、また、当中間連結会計期間においても、営業損失27,804千円、経常損失28,798千円、親会社株主に帰属する中間純損失27,574千円を計上しております。

当該状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは当該状況を解消し又は改善すべく、以下の対応策に取り組み、安定した収益基盤の確立、コスト削減および資金調達等による、財務基盤の強化を目指してまいります。

具体的には次のとおりであります。

１．既存事業である歯科技工関連事業、オーラルケア製品製造販売事業及びマウスピース矯正事業の収益拡大と利益率の向上を目指し、さらに新規事業として歯科関連ビジネスの立ち上げと育成にも努めてまいります。

２．イオン歯ブラシの製造販売を行っている連結子会社アイオニック株式会社との連携によって、収益基盤の拡大とシナジー効果の創出に努めてまいります。

３．主要取引先であり、アイオニック株式会社への共同出資を実施した株式会社シケンと引き続き緊密に連携し、収益の拡大を図ってまいります。

４．人件費を含めた経費の全面的見直しを実施、不採算部門の縮小等リストラクチャリングを積極的に推進し、キャッシュ・フローの最大化を目指してまいります。

５．財務状態の改善を目指し、新たなファイナンスの検討を実施、同時に借入金等その他の資金調達についても進めてまいります。

以上の対応策を中心とした経営の効率化を図り、安定的な収益基盤を構築すべく努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上であり、計画が全て順調に推移するとは限らず、不測の事態も考えられることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当中間連結会計期間（自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）

当社は、2026年７月21日付で、当社代表取締役社長 河野恭佑及び当社取締役 村口和孝から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当中間連結会計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ13,250千円増加し、当中間連結会計期間において資本金が81,234千円、資本準備金が43,250千円となっております。

（セグメント情報等）

１．報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「歯科技工関連事業」、「オーラルケア製品製造販売事業」及び「マウスピース矯正事業」の３つを報告セグメントとしております。「歯科技工関連事業」は提携歯科技工所及び歯科クリニックから依頼される歯科技工物の製作受注を中心に、歯科技工関連商品（歯科技工材料、歯科技工機械）の販売も実施しております。「オーラルケア製品製造販売事業」は、イオン歯ブラシの製造販売を中心に、オーラルケア製品の製造販売を行っております。また「マウスピース矯正事業」はマウスピース矯正サービスを提供する提携歯科クリニックに対し、マウスピース等の歯科技工製品に関する技術的アドバイス及びサポート業務を実施しております。

２．報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報及び収益の分解情報

前中間連結会計期間（自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			計	調整額（注）１	中間連結財務諸表計上額
	歯科技工関連事業	オーラルケア製品製造販売事業	マウスピース矯正事業			
売上高						
歯科技工	49,002	－	－	49,002	－	49,002
歯科技工商品・製品販売	19,617	－	－	19,617	－	19,617
歯科関連商品販売	44,492	－	－	44,492	－	44,492
オーラルケア製品製造販売	－	291,836	－	291,836	－	291,836
マウスピース矯正サービス	－	－	44,379	44,379	－	44,379
顧客との契約から生じる収益	113,112	291,836	44,379	449,328	－	449,328
その他の収益	－	－	－	－	－	－
外部顧客への売上高	113,112	291,836	44,379	449,328	－	449,328
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
合計	113,112	291,836	44,379	449,328	－	449,328
セグメント利益又はセグメント損失（△）	△15,684	△5,403	12,875	△8,212	△14,891	△23,103

（注）１　調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益又はセグメント損失の調整額△14,891千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２　セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			計	調整額（注）１	中間連結財務諸表計上額
	歯科技工関連事業	オーラルケア製品製造販売事業	マウスピース矯正事業			
売上高						
歯科技工	43,734	－	－	43,734	－	43,734
歯科技工商品・製品販売	23,668	－	－	23,668	－	23,668
歯科関連商品販売	29,059	－	－	29,059	－	29,059
オーラルケア製品製造販売	－	243,393	－	243,393	－	243,393
マウスピース矯正サービス	－	－	10,924	10,924		10,924
顧客との契約から生じる収益	96,462	243,393	10,924	350,780	－	350,780
その他の収益	－	－	－	－	－	－
外部顧客への売上高	96,462	243,393	10,924	350,780	－	350,780
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
合計	96,462	243,393	10,924	350,780	－	350,780
セグメント利益又はセグメント損失（△）	△13,880	△4,694	6,276	△12,298	△15,506	△27,804

（注）１　調整額は、以下のとおりであります。
セグメント利益又はセグメント損失の調整額△15,506千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
２　セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。